

Executive Summary

グローバル調査

真のデジタル・ワークプレイスの到来に対して、多くの企業はまだ準備ができていません。

VoIPの使用や、モバイル端末から会社のEメールにアクセスしたり、ソーシャルメディア上の企業ニュースを追ったりすることは、現代社会では既に当たり前になっています。こうした要素だけでも、デジタル・ワークプレイスを取り入れていると考える人もいます。アバナードの考えは異なります。

Executive Summary

オフィス環境の劇的な変化

2013年、アバナードは4つのテクノロジー・トレンドを調査しました。これらトレンドは、働き方における変化や機会を推進し、ビジネスを遂行する工程を組織に再構築させる力を持ったものばかりでした（働き方の再構築：新しい機会を捉えるための戦略（英語）を参照）。現在は、オフィス環境そのものと、デジタル・ワークプレイス下で働く従業員の役割へのデジタル化におけるインパクトに焦点が向けられています。

私たちの知る従来のオフィスは、これからも存在し続けるのでしょうか？ 将来のデジタル・ワークプレイスとは、どのようなものなのでしょうか？ 真のデジタル・ワークプレイスがもたらすビジネス上の利点とは何なのでしょう？ 当社が実施した最新の調査では、こうした話題などについて掘り下げました。デジタル・ワークプレイスに対する企業の定義、最先端企業が実現している利点、予見している、あるいはこれまでに向き合ってきた課題、今後向き合うことになるであろうと予測している変化について理解したかったからです。

鍵となる質問は次の通りです。それは、「企業では備えが整っているか」ということです。調査における発見を見れば、その質問に対する短い答えは「ノー」であることが分かります。



まず初めに、デジタル・ワークプレイスが実際には何を指し示すのか、市場では混乱が広がっています。84%の回答者が、デジタル・ワークプレイスに必要なのはEメールやソーシャルメディアであると誤って理解しています。私たちは、デジタル・ワークプレイスを「従業員に活力を与えるオフィス環境」と説きます。それは場所に左右されることなく、デジタル・ツールやインテリジェント・コンテキストを活用して、ビジネスの長所を推進するオフィス環境を意味します。簡単に言えば、従業員はいつでも、どこでも必要な時に情報やリソースにアクセスし、より効果的に仕事を遂行することが可能となるのです。適切な情報が、適切な時に従業員を探ることができるよう、インテリジェンス（知能）を提供することも可能です。こうして得られる恩恵は、本物です。

デジタルへの旅はすでに始まっており、ビジネスへの恩恵を生み出し始めています。

デジタルツールを採用した企業が実現したビジネス上の結果が、驚くべきものであることが調査によって示されています。

- 67%の回答者が、生産性が向上したと回答しています。
- 53%の回答者が、従業員との絆が深まったと回答しています。
- 43%の回答者が、直接的な結果として収益の成長を報告しています。

競合よりも高い利益を上げていると自ら語る88%の企業が、デジタル・ワークプレイスに関するソリューションを、少なくとも1種類採用しています。ソリューションの例としては、データや分析、ソーシャル・コラボレーション・ツールなどがあります。一方、利益の少ない企業では、79%でした。

企業が、デジタル化の将来を段階的に構築し始めていることも、調査は示しています。興味深いことに、回答者は従来のオフィスが最終的には消滅することを認める一方、現在の物理的なオフィスの外で、従業員がシームレスにソフトやアプリケーションにアクセスできるのは、4社中1社（28%）に留まっています。しかし、大多数の企業は、デジタル・ワークプレイスを構成する要素の一部を採用するといった小さいながらも重要なステップをすでに実施しています。構成要素の例としては、コネクティビティ・ソリューション（73%）、データや分析ツール（62%）などがあります。

加えて回答者は、今後12ヶ月から24ヶ月の間に、デジタル・ワークプレイスを構築するための投資を行うことを示唆しています。焦点は、ソーシャル・コラボレーション（69%）、ビジネス・インサイトおよび情報（77%）、ITインフラ（78%）となる見通しです。



「生産性向上を促す」と67%の人が答えたものとは何でしょうか？ **デジタル・ワークプレイス。**



デジタル・ワークプレイスを構築するには、4年かかります。あなたはもう始めていますか？



Eメールやソーシャルメディアは、**デジタル・ワークプレイス**と同じでしょうか？ **考え直しましょう。**



現代に生きる10代の若者は、**今日存在しない職業に就くことになるでしょう。彼らを雇用する備えが、あなたにはできていますか？**



企業は今、**デジタル・ワークプレイスを構築しています。あなたの企業は置き去りにされてしまうのでしょうか？**

あなたの企業は置き去りにされてしまうのでしょうか？ できることはあるのでしょうか？

まったく新しい仕事環境が今後誕生する、と企業が確信していると調査は明白に示しています。事実91%の回答者が、現代に生きる10代の若者は、今日存在しない職業に就くことになるであろうと考えており、72%の回答者は、従来のオフィスは数年のうちに廃れるであろうと考えています。ほぼ3分の1 (31%) の回答者が、自社のテクノロジーは創造的思考を妨げているとも考えています。

明確な進路が示されているにもかかわらず、半数の回答者 (48%) がデジタル・ワークプレイスのソリューションにおけるコストを鑑みると、完全なデジタル・ワークプレイス環境を構築するには、4年かかるであろうことを示唆しています。迅速な導入と変革を実現するために、企業は何ができるのでしょうか？

コネクテッド (繋がった) なオフィス環境で、働き方を変える。

テクノロジーにおける投資を、戦略的目標に合わせ調整することが、重要な最初のステップです。たとえば75%の回答者は、デジタル・ワークプレイス (企業が発信するEメールの優先順位を決めるツールや、お客様に積極的に製品を提案するツールなど) が、企業に顕著な恩恵をもたらすであろうことを示唆しています。しかし、すでにこうしたツールを採用している企業は、44%に留まっています。

さらに具体的に言えば、63%の企業が、ソーシャル・コラボレーションに投資すれば対処できるはずの、優秀な人材の保持や採用といった永続的な課題を今なお抱えているにも関わらず、73%の企業がソーシャル・コラボレーション・テクノロジーへの投資を最優先事項としておらず、31%の企業は、まったく優先事項として考えていないのです。自社のビジネスを成長させるためのより若く、機動性が高い、そして社会的に繋がりの深い適切な人材を惹きつけ、保持する力を備えることがこれまで以上に重要となって来ます。人材確保のための市場における戦いが加熱する今、その重要性はさらに増しています。



あなたの企業は、置き去りにされてしまうリスクに面しているのでしょうか？以下の「ITアドバイザーの見解」では、デジタル・ワークプレイスに関するソリューションを用いて企業が恩恵を享受するための、具体的なステップについて述べています。

ITアドバイザーの見解

真のデジタル・ワークプレイスが持つ、ビジネス上の恩恵を享受するために、企業はデジタル・ワークプレイスのテクノロジーを活用して、従業員を取り囲むインテリジェント・コンテキストを作り上げなくてはなりません。ビジネス工程を効果的に適合させ、従業員の業種、役割、場所、職務に合ったコンテキストにすることが必要です。

アバナードは、あなたがデジタル・ワークプレイスへの旅を管理できるよう、以下のステップを踏むことをお勧めします。

コンテキストに焦点を合わせる。 デジタル・ワークプレイスから得たい恩恵について、明確な目標を設定しましょう。そして、営業や現場サービスなどの重要な人材やチームにまず焦点を合わせます。役割についている人が最大限効果的に働けるようにするために、どのような情報、ツール、インテリジェンスが必要なのかを具体的に判断しましょう。

優れたユーザ体験を提供する。 従業員が、必要な時に「いつでも、どこでも、どのデバイスを使っても」情報にアクセスできるようにしましょう。そして、仕事を遂行するためのコンシューマー・レベルのアプリケーションを開発しましょう。

変化を管理する。 デジタル・ワークプレイスの明確な利点を、分析、ゲーミフィケーション、レコグニションを用い、従業員に強調しましょう。見通しを明確に設定し、デジタル・ワークプレイスの導入結果を追跡します。

アバナードは時代を先行して、Windows 10などの新しいテクノロジーを活用しています。Office Graphなどのテクノロジーが提供するインテリジェント・コンテキストを活用して、真のビジネス価値や、顧客企業と深い絆を持つ従業員を推進します。対象とする議論に重要なステークホルダーを巻き込むことができる、デジタル・ワークプレイスのワークショップや、アセスメントをお勧めします。このアプローチを取ることによって、ビジネスの目標に対する参加者の理解を深めることができます。また、他の有名企業が辿った旅を共有し、現在利用可能なサービスのライブデモなどを通して、可能性の力をご覧いただけます。

詳細については、www.avanade.com/digitalworkplaceをご覧ください。

調査方法

アバナードの調査は、Wakefield Research（ウェイクフィールド・リサーチ、www.wakefieldresearch.com）がオンライン調査形式で、オーストラリア・カナダ・ドイツ・オランダ・シンガポール・イギリス・アメリカに居住するCレベルの幹部とIT関係の意思決定者500名を対象に実施しました。調査は、2015年5月14日～5月28日の間にEメールによる招待形式でオンライン調査により実施されました。

サンプルの結果はいずれも、サンプリング変動を条件とします。変動の大きさは測定可能であり、インタビュー数および結果を表した比率の影響を受けます。サンプリング誤差の範囲は、プラスあるいはマイナス3.1パーセント点です。



アバナードについて

アバナードは、優れた人材とマイクロソフトのエコシステムにより、革新的なデジタルサービスおよびクラウドサービス、ビジネスソリューション、デザイン主導のエクスペリエンスを提供するリーディングプロバイダです。アバナードのプロフェッショナルは、テクノロジー、ビジネス、業界に関する専門知識を組み合わせ、当社顧客とそのエンドユーザーが求める成果を挙げるためのソリューションを構築・展開します。世界23カ国にデジタルでつながった29,000人の従業員を擁し、多様性と事業を展開する地域の社会を尊重するコラボレーティブな企業文化の下、お客様に最善のソリューションを提供しています。アバナードは、2000年に米国アクセンチュアおよび米国マイクロソフトにより設立され、アクセンチュアが筆頭株主を務めています。詳細は、アバナードのウェブサイト（www.avanade.com）をご覧ください。